

# パヤオ漁場管理と漁具漁法技術交流会

会 務 交 渉

鹿児島県水産課 水産部 水産課長 新里勝也、水産課長 長嶺 巖

鹿児島県八重山支庁 支庁長 新里勝也、支庁長 長嶺 巖

鹿児島県八重山支庁 支庁長 新里勝也、支庁長 長嶺 巖

1. 課 題

パヤオ漁場管理と漁具漁法について

2. 目 的

近年、沖縄県全県的にパヤオ（浮魚礁）が設置され、着業者数、漁獲量が増加している。八重山漁協管内においても、昭和57年から本格的な表層浮魚礁を設置、以来パヤオ漁業が一つの漁業形態として定着しつつある。

しかし、パヤオを利用する漁業者が増えはじめると、漁場が限られているだけに管理、利用上のトラブルが頻発するようになってきた。宮古管内においても管理方法等が問題となっていたが、平良市、伊良部町、池間の三漁協のしっかりした管理方法の基にパヤオ漁業が安定して営まれている。

そこで、パヤオの管理上の問題点や漁具漁法の技術等を情報交換し、交流することによってより安定した水場をパヤオ漁業によって得られることを目的とし、実施した。

## 3. 交 流 地

伊良部町漁業協同組合

## 4. 日 程

昭和60年7月10日～7月12日

## 5. 参 加 者

氏 名	所 属
伊良波 淳 世	伊良部町漁業協同組合
伊良波 猛	伊良部町漁業協同組合
前 里 吉 昭	伊良部町漁業協同組合
高江洲 正 明	八重山漁業協同組合
玉 城 春 男	八重山漁業協同組合
上 里 正 行	八重山漁業協同組合
長 嶺 巖	宮古支庁水産業改良普及員
新 里 勝 也	八重山支庁 "

## 6. 交流地の概要

伊良部町は、沖縄本島から南西へ約320kmの宮古列島にあり、人口がおよそ1万人の町である。古くから南方かつお一本釣漁業で知られており、沿岸かつお一本釣漁業、追い込み網漁業、曳縄釣漁業が盛んな漁業地域である。

## 7. 交流会

初日、伊良部町漁協に着き夕食を共にしながら、伊良部漁協が行なっているパヤオの管理方法と八重山漁協の現状等を比較検討しながら交流した。

伊良部町漁協では、小型船組合が主体となり、パヤオからの水揚額の1%を積み立てしパヤオの維持管理費に充てたり、細かい規則等を決めている。また、お互いに技術の向上を計るため、情報交換を密にし、利用する漁業者全員でパヤオ漁業を安定させていくという観点に立って運営している。

2日目は午前7時より午後5時まで、流し一本釣やジャンボ曳などの操業試験を行ない漁具漁法の交流を行なった。漁獲実績は別表のとおりである。

7月11日水揚物 第3美吉丸 2.5トン

No.	魚種	重量(kg)
1	キハダ	29
2	"	28
3	"	24
4	"	23
5	"	22
6	"	18
7	"	9
その他	カツオ、キメジ	20
計		173

## 8. 所感

今回、交流会を行ない改めてパヤオの管理運営の重要性を感じさせられた。これまではパヤオを設置し、いかにして釣り上げるかという漁獲技術の改良に力を入れてきたが、パヤオが流失するとパヤオ漁業という一漁形態までも消失してしまう。今後この漁業形態を定着させていくためには、単に獲る技術だけでなくパヤオの管理、維持を徹底して行なうことが必要である。また、パヤオから安定して大量に水揚げされるようになると、八重山管内で現実には大きな問題となっているような値崩れ等の問題が懸念される。しかし、この安定した水揚量を武器にし、流通に便乗させていく努力も考えていかねばならないだろう。